

ひょうご瀬戸内ごみゼロ青年団（CFB・海と日本2021）

ひょうご瀬戸内ごみゼロ青年団実行委員会

2021年度 成果

今年度は新たな取組みとして、ごみ拾いをするとポイントが貯まる“行動変容モデル”「さんぽdeごみ拾い」を実施。コロナ禍でも個人で自発的にごみ拾いができる事業を目指し、延べ3,804人が参加。汎用モデルとなるよう、行動変容調査も行いました。昨年度から実施している「護海チャレンジ」は、洲本市に加えて淡路市での導入が決定。海ごみゼロアワード2021「日本財団賞」を受賞できたことで、他の自治体の関心が高まっています。「できるだけ紙対応プロジェクト」では、80店舗に拡大した認定店舗ネットワークを活用した海洋ごみ問題啓発キャンペーンを実施。イベント連携の「うみぞら映画祭」では、海洋ごみ問題啓発トークショーやライブを実施。商品開発では、(株)サクラクレパスと“きれいな海を描いてもらうオリジナルクーピー”や日米珈琲(株)と“ラベルレス瓶アイスコーヒー”を開発。子どもたちを含め消費者が海洋ごみ問題について考えるきっかけを作ることができました。



行動変容モデル

「さんぽdeごみ拾い」。
ごみ拾いをするとポイントが貯まり、商品と交換が可能。普段、ごみ拾いをしない人も散歩しながら気軽にごみ拾いに参加できる仕組み。



自治体連携モデル

不要なプラスチック袋を削減するため、レジ袋が指定ごみ袋としても利用できる「護海チャレンジ」。海洋ごみ問題啓発となるデザインを施しています。洲本市実施中、淡路市導入決定。



イベント連携モデル

「ロハスフェスタ淡路島」や「みなとまつり」など県内のイベントと連携してごみ拾い活動を実施。「うみぞら映画祭」ではごみ拾いだけでなく、海洋ごみ問題啓発トークショーを実施。



店舗連携モデル

できるだけ環境にやさしい素材を使用している飲食店を「できるだけ紙（神）対応店」として認定。現在、淡路島島内に80店舗。店舗連携啓発活動などを実施。

その他：海（自然）にやさしい石鹸を製造・販売する島せっけんと海洋ごみ問題啓発メッセージを込めた限定セットを商品開発

メディア露出



6/2 サンテレビ「キャッチ+」
護海チャレンジ



7/28 サンテレビ「キャッチ+」
スポGOMI甲子園



9/24 サンテレビ「キャッチ+」
さんぽdeごみ拾い



10/30 サンテレビ「バキバキ☆ビート！ II」
ロハスフェスタ淡路島

その他：TV番組7本・CM2本 WEB4本・淡路島観光情報サイト「あわじしまっぷ」 新聞2紙 地域媒体3誌

2021年度の課題とこれからの展望

今年も昨年に続き新型コロナウイルスの影響で、多くのイベントが中止または規模縮小での開催となりました。長期化することを見据えて、個人でも積極的にごみ拾いができる仕組み作りや、海洋ごみ削減につながる事業のさらなる構築が必要と考えます。「さんぽdeごみ拾い」、「護海チャレンジ」、「できるだけ紙対応プロジェクト」のブラッシュアップにより汎用性を高め、継続的且つ、様々なエリアで実施できるようにすることが課題です。

SDGsの影響もあり海洋ごみ問題に関心を持つ企業が増えているので、企業との連携事例を増やし、県民の海洋ごみ問題に対する意識向上を図ることを目標とします。他県との連携も視野に入れ活動します。